

企業も社員も進化する 宮城3Sラボ

東北で生まれた3Sグループ

東北でも3S活動の輪が広がっている。MDファクトリーHSの川端政子社長の指導の下で発足した、宮城県内の3S活動グループ「宮城3Sラボ」は、今年で4年目を迎えた。第3期まで9社が活動し、第4期は6社が参加。今期は参加企業の所在地を考慮し、仙台チームと栗原チームの2グループ体制でスタート。それぞれ4月に発足式が行われた。栗原市周辺の栗原チームは、パン・洋菓子製造の(有)パレット、海藻加工の(株)大平昆布、新聞販売店の(株)長谷川新聞店の異業種3社が集まった。一方、仙台チームは自動車整備の(有)朝比奈商会、工務店の(株)佐元工務店、産業機械の興立産業(株)で発足。それぞれ業種は異なるが、互いに交流しながら3Sを学んでいく。

宮城3Sラボのカリキュラムは1期全12回。各社から5～6人が出席。ただし、初年度は社長も参加することが必須条件である。3年間で川端社長の指導によるカリキュラムは終了し、その後は自主活動として継続していく。

発表は「伝える力」を養う

今回、栗原チームの第3回の定例会取材した。この日は、第1期生の(株)ファミリーメイト(仙台市泉区)の安藤真史社長もアドバイザーとして出席。13時から17時まで行われる定例会は、前回の宿題について各チームが発表した後、整理、整頓、清掃など毎回のテーマに合わせた講義を川端社長が

行う。その後、持ち回りでホスト企業の現場を観察(ウォッチング)。最後にチームで分析し、発表する。

今回発表する宿題の内容は、前回の定例会の振り返りと社内の3S活動計画、1カ月間の改善事例など。3チームがそれぞれPowerPointで作成した資料をもとに報告した(写真1)。各社ともいるもの、いないものを区別し、整理を着手した段階で3Sはまだ始まったばかり。発表後には活発な質疑応答がなされ、各社とも3Sのアイデアやヒントを探っていた。

このグループ活動は、切磋琢磨しながら3Sそのもののレベルアップを図ることが目的であるが、相乗効果はほかにもある。毎回の発表こそ、伝える力を養う貴重な機会であると川端社長は強調する。普段の業務ではPowerPointで資料を作成したり、人前で話したりする機会は非常に少ない。そのため、初めは不慣れで質素、要点の見えにくい資料であることも多い。川端社長は、「改善前後の写真を対比させると効果が見えやすい」「活動実績の結果をグラフ化したほうがわかりやすい」「時系列を羅列するより、主要な話題をピックアップして見せたいところを伝える」といった、見せ方と伝え方のコツをアドバイス。「あの会社の資料の見せ方を次はまねしてみようとか、回を重ねることで発表の仕方や聞く人を気遣った伝え方がレベルアップしていくのです。話すことが苦手だった人も緊張せずに話せるようになったり、話し方が上達していきます。その成長にいつも驚かされます」と川端社長は話す。

写真1 定例会は宿題の発表から始まる



写真2 パレットの販売店舗をウォッチング



現場観察は「気づく目」を養う

今回の現場ウォッチングはパレットで行われた。パン・洋菓子の製造現場と事務所、店舗が舞台だ。整理・整頓・清掃のチェック項目が記されたウォッチングシートを手に見て回る(写真2)。そして気づき、改善点、良いところ、アドバイスなどを記入。初めてパレットの現場を見た2社は、「置場の表示をわかりやすくしたほうがいい」「備品などモノが多い」などさまざまな気づきを発表。その感想を聞いたパレットの高橋裕生氏は、「荷物を整理し、定位置化と表示を徹底していきたい」と改善に意欲を見せた。

一方、アドバイザー役の安藤社長は、通路に高く積まれた段ボールに着目。「3Sの目的である安全という視点で改善に着手してみても」と助言した。最後に、全員のウォッチングシートはパレットに手渡された。このシートは改善ポイントを発見できる、貴重な置き土産となる。

第4期はまだ3Sの序盤。さらに3Sのエンジンがかかり、本格稼働していこう。その進化が楽しみである。それは各社のトップたちが抱く思いでもある。大平昆布の伊藤正吾社長は、「3S活動を始めてまだ2カ月。1社単独では続かないことも3社が集まって取り組むからこそ、継続していけると確信しています」とグループ活動に期待を寄せている。



宮城3Sラボ参加企業に聞く

【第1期】 日の丸ディスプレイ仙台 宮城発の3Sを率いるキーマンを輩出 今年の3Sサミットを盛り上げる

宮城3Sラボ第1期に参加した(株)日の丸ディスプレイ仙台(宮城郡利府町)。新崎博社長は、宮城で初めて3Sグループを発起したキーマンでもある。今では、宮城3Sのトップリーダーとして活動を盛り上げる。

今年の3Sサミットは社員主体で開催

同社は、屋外大型看板や案内標識などの室内サインのデザインから製作を行っている。工場内には金属加工や溶接、塗装などの設備を備える。その加工現場では女性の姿が目立つ(写真3)。20代前半の若手の女性社員が続々と入社し、現在4人が活躍する。そのなかに3S活動を引っ張る女性がいる。3S副リーダーの渥美枝莉花氏だ。入社2年目で副リーダーになり、今では3S活動の欠かせない存在。その活躍が目にとまり、県外の3Sイベントで発表することもある。今年の宮城3Sサミットのポスターのデザインを担当している。

今年、宮城3Sサミットは2回目を迎える。初めて開催した昨年は、3Sラボの社長たちが中心